

眼科摘要
一

✕

g 8-2

496.2
Ga-3

明治二年己巳孟春新雕

佐藤舜海閱
倉次元意譯

初編

眼科摘要

臨湖山房藏



回春所藏



眼科摘要序



凡天下之事無大小必有其要
焉故人不知其要豈能有為哉
余見方今之醫風率多以眼科
為小技置之度外矣殊不知人
身百體其尤為貴者眼也故其

部雖小製造極精感應極靈此
其病之多所以倍于他病也是
故為醫者不可以不細心講求
此學以立之良法也而皆反忽
之可勝歎哉余嘗閱吾邦之眼
科書自眼中之部位各局之功

用至諸症之病理療法之利害
曾無一語之親切適實者故其
處方亦至於以藥試病宜矣為
其所誤極多也吾友倉次元意
用意眼科久矣一日發憤曰凡
所貴于人身者莫如眼矣豈可

以忽之哉於是譯普魯士人
澄屏遍尔所著之書題曰眼科
摘要將公之于世來請序於余
盖此書為在彼紀元千八百六
十年所著云余嘗遊長崎得之
和蘭人朋百者手寫以齎歸而

未及譯之而今元意乃既譯之
矣比之吾邦眼科書自夫眼中
之部位功用至其病理療法其
論簡而其理確固不可同日而
語也余乃謂元意曰偉哉子之
志也如子之於醫則可謂知要

者矣嗚呼此書一出而醫風果
一變矣則實濟世之賜也此不
可以不一言也明治二年己巳
正月佐藤尚中識



眼科摘要凡例

此書ハ和蘭第二等醫官兼海軍衛生督朋百般默
尔埤兒法尔篤氏曩ニ招ニ應シテ寄陽ニ在ルノ
日生徒ヲ教喻スルタメニ普魯士ノ醫官整捏屏
遍尔氏著ス所ノ眼科書ニシテ即チ彼記元一千
八百六十年鏤行スル所ノ書ニ據テ繁ヲ去リ要
ヲ摘ミ加ルニ自家特得ノ説ヲ以テス此書ヤ實
ニ彼ノ邦醫道變革後ノ説ニ基キ實驗ヲ宗トシ
論辨セラレシ眼科醫範ナリ初學ノ者舊套ヲ脱
シ此書ニ就テ熟讀翫味セハ治術ヲ施スノ際ニ

當テ思ヒ半ハエ過シ

世ニ梓行スル所ノ眼科書其數多シト雖氏議論
多クハ確實ナラス此術ニ於テ一モ裨益アルモ
ノナシ唯杉田先生譯述スル所ノ眼科新書アリ
然レ氏是レモ亦醫道變革以前ノ著ニメ議論並
ニ其藥物ニ至テハ大ニ徑庭スル所アリ依テ顧
クニ余カ如キ丁字ナキ者ノ爲メニ譯述シ梓ニ
災シテ朋百氏ノ賜ヲ廣ク同喚メ者ニ領テ發明
スル所アラシメレト欲ス敢テ大方ノ看ニ具ヘ
レトニハ非ス

余ヤ元來文字ニ慣ハス故ニ譯文ハ拙劣ナリト
雖氏勉メテ文意通シ易クシテ原文ノ意味ヲ失
ハサルヲ宗トス然レ氏余カ淺學誤譯モ亦少
ナカラス毫釐ノ差千里ノ誤リヲ至スヲ懼ル故
ニ僚友舜海佐藤君ニ乞テ其誤譯ヲ訂ス行文ノ
如キハ余カ淺學如何トモシ難シ乞看官此文ノ
拙ナルヲ以テ此書ヲ排スル勿レ
本文ノ下ニ二行ニ補注ヲ加ヘシハ本注ナリ又
タ意ノ足ラサルヲ補ハシカタメニ余カ管見ヲ
加ヘシ所モアリ夫レハ〇ヲ冒ラシテ本註ナラ

ザルヲ標ス

時刻ハ凡テ彼邦ニ從ヒ書中云フ所ノ一時ハ晝
夜平等時ノ一時ニシテ即チ我平等時ノ半時ナ
リ其一時ヲ六十分シタルヲ分ト譯ス分ヲ復タ
六十分シタルヲ鈔ト譯ス混スルヲ勿レ秤量ハ
凡テ先輩定ル所ノ字樣ニ從フ但シ了ハ多ト錯
誤ニ易キヲ以テ幾ト譯ス病名モ亦先輩ノ譯
例ニ從ヒ西醫略論ノ病名ヲ襲用スル所モアリ
晚近ノ發明ニ出ル病名ハ敢テ猥リニ譯名ヲ下
サス皆原名ヲ襲用シテ以テ來哲ノ譯定ヲ俟ツ

明治記元歲在戊辰十二月

佐倉待醫

倉次元意誌

眼科摘要

卷一

臨湖山房藏

眼科摘要

總目錄

卷之一

眼疾總論

治法總論
轉歸
診察法

預後
眼疾經過
原因

眼疾識別
遺傳素質

藥劑總範

不可量物
乾溫

光輝

越列幾的兒

氣類

蒸氣

濕香竄蒸氣

溫水蒸氣

滴流物

揮發眼水
水雪

溫水

冷水寒水

眼水 點眼水

刷眼水

眼蒸法

眼浴法

稠厚物

琶布

糊劑

眼膏

眼散

眼硬膏

乾腐蝕藥

卷之二

血管系統過度病

總論

血積病

眼血積

強膜

結膜血積

紅彩血積

溢血病

淚器出血

出血

轉移內出

眼強

角膜與結膜之間出血

眼室出血

蜂巢

纖維出血 水晶體硝

自血液所分泌之疾病

子體中出血 與硝子體間出血

強膜脈絡膜出血網膜

水液病

總論

眼室溢水浮腫

水晶膜下腫

硝子液

小房中非常水積

水晶膜水

粘液流出病

結膜淋

老人淋

淚囊

卷之三

眼器燠衝病

總論

各異燠衝病

眼瞼燠衝

眼瞼表皮致眼瞼外反者

因皮膚之瘡

破裂愈合

壞死

上瞼下垂

眼瞼

眼瞼蜂窠織焮衝

眼瞼組織焮衝內眥焮衝

眼瞼血瘍

眼瞼瘍

眼窩內蜂窠織及骨衣焮衝

睫毛根焮衝併眦脫落

睫毛內反

眼瞼

粟粒腫炭疽

淚阜焮衝淚阜消亡

淚核焮衝淚核硬結

淚核焮衝淚核漏

淚囊焮衝

淚液流出
淚囊弛緩
水腫

淚囊炎道狹隘
淚管愈

着淚核弛緩
淚囊瘡
淚點愈
內外淚囊漏

眼筋及筋衣焮衝

卷之四

眼球結膜焮衝

大診識

垂簾翳散

血管廣

膜潰瘍
結膜水疱
及軟化
膿疱
焮衝
結膜下蜂

窠織中純小
狀結膜出
焮衝
合併膜
肉膿汁
泌

別或稞粒
贅肉
眼瞼肉腫
球愈
結節
腫及軟骨
結膜色

腫新生翼
素新生
角膜
眼之結膜
愈
膜曇暗
。瘰癧
結膜性

內反
眼瞼外反
麻痺
膜樣
內反
焮衝
外反
成形
。老人

外反

因他因外反

一部外反

卷之五

強膜焮衝水樣強膜軟化強膜創強膜化膿及脫垂

角膜焮衝疹狀角膜實質焮衝角膜後面致滲出

角膜潰瘍單越昆膿瘍粒母剝脫角膜軟化及壞

角膜曇暗角膜後面曇暗角膜組織曇

滲出物曇暗

膿樣曇暗及繼發症

卷之六

角膜穿鑿

角膜鰲倮屈

紅彩脫出

假角膜成形全角膜化成一部角膜不全角膜化

角膜層損傷刀傷傷異物火傷

角膜圭狀突起

紅彩焮衝慢性紅彩焮衝紅彩焮衝胃寒紅彩焮

瞳孔變形及數瞳孔紅彩乏去

卷之七

水晶體系統病

水晶體創

水晶體自脫

水晶體及囊炎衝

灰白內障翳

囊灰白內障翳

囊後面內障翳

囊前面內障翳

囊前面內障翳

水晶體

水晶體中心內障翳

水晶體皮樣內障翳

水晶體前面內障翳

水晶體皮樣內障翳

水晶體皮樣內障翳

水晶體

水晶體內障翳

水晶體全體內障翳

水晶體全體內障翳

水晶體全體內障翳

水晶體全體內障翳

水晶體

水晶體內障翳

水晶體內障翳

水晶體內障翳

水晶體內障翳

水晶體內障翳

硝子體病

硝子體炎衝

硝子體水腫

硝子體軟化

硝子體曇暗

網膜病

網膜充血

網膜炎衝

網膜中風

網膜刺戟

網膜刺戟

網膜刺戟

網膜刺戟

日盲

網膜機能全亡

網膜機能全亡

網膜機能全亡

網膜機能全亡

網膜機能全亡

網膜機能全亡

夜盲

卷之八

脈絡膜及尾狀展炎衝

脉絡膜血積脉絡膜出血
消亡
尾狀展翳衝

淚器病總論

淚核翳衝

上眼瞼淚囊腫

淚核瘤

淚囊翳衝

淚囊漏

淚點淚囊鎖閉

淚管息肉

淚阜腫

眼球病

眼球創

全眼翳衝

眼球漏

卷之九補說

內障翳鍼術圖說

造假瞳孔圖說

眼科摘要總目錄了

眼科摘要卷一目錄

眼疾總論

治法總論

遺傳素質

轉歸診察法

眼疾經過

眼疾原因

藥劑總範

不可量物

乾溫

光輝

越列幾的兒

氣類

蒸氣

濕香竄蒸氣

溫水蒸氣

滴流物

揮發眼水

溫水

冷水寒水

眼水

點眼水

刷眼水

眼蒸法

眼浴法

稠厚物

琶布

糊劑

眼膏

眼散

眼硬膏

乾腐蝕藥

卷之二

血管系統過度病

血積病

眼血積

強膜結膜血積

紅彩血積

溢血病

總論出血

強膜出血

紅彩血積

強膜

與脈絡膜出血

強膜出血

蜂窠織出

水晶體

及網膜與硝子

強膜出血

蜂窠織出

自血液所分泌之疾病

水溢病

總論

眼室溢水

水晶體下溢

硝子液小房中非常水積
腫全眼水腫
脉絡膜水

粘液流出病結膜淋
老人淋
淚囊

卷之三

眼器焮衝病總論
各異焮衝病

眼瞼焮衝眼瞼表皮焮衝外反者因皮膚瘡痕

裂眼形致眼瞼下垂
合壞死
眼瞼下垂

眼瞼蜂巢織焮衝

眼瞼組織焮衝內瞞焮衝

眼瞼血瘍

眼瞼瘍

眼窩內蜂巢織及骨衣焮衝

睫毛根焮衝睫毛脫落
睫毛內反
眼瞼

粟粒腫炭疽

× 1 求 1 2 核焮衝

淚阜焮衝淚阜消乏
淚阜肥大

淚核焮衝淚核硬結
淚核漏

淚囊焮衝粘液流出
淚囊炎道狹隘
淚囊炎管愈

着淚核弛緩
淚囊瘡
淚點愈
內外淚囊漏

眼筋及筋衣焮衝

眼科摘要卷一目録了

一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十	二十一	二十二	二十三	二十四	二十五	二十六	二十七	二十八	二十九	三十	三十一	三十二	三十三	三十四	三十五	三十六	三十七	三十八	三十九	四十	四十一	四十二	四十三	四十四	四十五	四十六	四十七	四十八	四十九	五十	五十一	五十二	五十三	五十四	五十五	五十六	五十七	五十八	五十九	六十	六十一	六十二	六十三	六十四	六十五	六十六	六十七	六十八	六十九	七十	七十一	七十二	七十三	七十四	七十五	七十六	七十七	七十八	七十九	八十	八十一	八十二	八十三	八十四	八十五	八十六	八十七	八十八	八十九	九十	九十一	九十二	九十三	九十四	九十五	九十六	九十七	九十八	九十九	一百
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----

眼科摘要卷之一

荷蘭

朋百般默兒埕兒法爾篤鈔

佐倉

佐藤舜海 閱

倉次元 意 譯

眼疾總論

眼球ハ組織錯綜シテナル而々其ノ組織ノ異ナルニ從テ病狀モ亦多端ナリ且ツ眼球ハ全體ノ總組織ヲ具フル故ニ一切ノ病癆ヲ一小區中ニ顯ハスモノナリ○凡ク眼疾ハ諸國通シテ患者多シト雖氏日本ニ於テハ特ニ甚シ故吾レ殊

ニ眼病ノ治法篇ヲ論ヤトス

光輝ノ眼ニ感入スルノ理ハ既ニ自然究理學中ニ於テ是ヲ論セリ而メ眼疾ヲ論スルニハ先ツ解剖學病理學ヲ論セスハ非ス若シ是レヲ知ラサレハ眼球ノ疾病ヲ明ムルヲアタワス此以テ是等ノ諸學モ亦タ既ニ論載セリ宜シク其書ニ就テ學フベシ、

諸國總テ眼疾アリ。是レヲ佗病ニ比較スルニ。病者百人ニシテ五人ハ眼病ナリ。但シ天行眼ハ此例ニ非ス。日本ニ在テハ。余カ比較ニ依テ考ル

ニ。病者百人ニシテ。十三人。十四人ハ眼病ナリ。男子ハ。婦人ニ比スレハ。眼病ニ係ル素質頗ル大ナリ。歐羅巴人ハ。是レニ係ル素質ハ。皮膚白色ニシテ光澤アリ。髮色淡ク。瞳孔青白ナリ。日本ニ在テハ。是等ノ狀態ヲ具フルヲ少キカ故ニ。此類ヲ以テ推シ難シトス。

年紀ニ係ル素質。

眼病ノ素質ハ既ニ分娩ヨリ十歳ノ間ニアリ。就中分娩ヨリ半歳ノ間頗ル甚シ。則チ天稟ノ眼疾。搐搦ニ因テ生スル斜眼等ノ如シ。半歳ヨリ一歳

ノ間ニハ、素質稍減ス。期年ヨリ二歳ノ際ニハ、
コルヒウセ毒發動スルヲ以テ眼疾ノ素質頗ル
増進ス。第二歳ヨリ、十歳ノ際ニ至テハ其因漸ク
減ス。情慾發動ノ際ハ、スコルヒウセ、再々著ク増
進ス。十五歳ヨリ際ニ由テ眼疾ノ素質モ亦々
從テ著ク増進ス。二十歳ヨリ五十歳ノ際ハ、則チ
スコルヒウセ減退ノ時期トス。然レモ此ノ時ニ
當テ聖京屈僂麻質血積黑障眼、小腹充血ヨリ發
スル視力減衰、多ク發露ス。五十歳ヨリ、再々眼疾
ノ素質増進ス。殊ニ痛風眼ハ、六十歳ニ至テ太甚

シク、七十歳及ヒ七十歳以上ハ漸ク減ス。

組織ニ係ル素質

凡テ眼衝病ハ、結膜ニ頗ル感ス。是ヲ比較スルニ、
眼球一切ノ眼衝ハ、百人ニシテ、其三分餘ハ結
膜ノ眼衝ナリ。而モ核ノ眼衝是レニ次キ。毛様鞏
帶眼衝、角膜眼衝、強膜眼衝、次第ス。其他ノ組織ハ、
眼衝ニ羅ルヲ少シ。
眼衝ニ非ル疾病、眼球ノ各器ヲ襲フニ多種アリ、
則チ次第シテ左ニ羅列ス。

灰白内障、眼斜視、網膜麻痺、
一部一部アリ急發近視眼、

知覺機過度即チ刺衝機過度知覺機減衰等ナリ。
然レ_レ神經衣特ニ病ニ罹ルノ素質ヲ有ス。

眼病一組織ヨリ他組織ニ轉移スル所以ノ
理ヲ論ス

リカッ_ト、_人名始メテ組織ノ交感力ニ由テ、病ヲ轉輸

セシムルト云ヘリ。然レ_レ晚近精密ノ實驗ニ由

テ考ルニ然ラス、凡ソ感傷ノ抵傳ハ、有機化育ハ

相通スルニ由ルノ理ヲ以テ説クヘシト云ヘリ

ラテテ、及ヒ_レリクテ、_人共名ニハ疾病ノ一組織ヨリ、他

組織ニ抵傳スル、其理明ラカナラサル者アリト。

如何トナレハ不慮ノ状態ニ由テ起ルモノアレ
ハナリ

血積血鬱焮衝及_レ其他ノ疾病其原ヲ脈管系統
ニ撮ル者ハ其擴延ノ勢ヲ全ク微系血管ニ藉ル

者ナリ故ニ是等ノ疾病ハ血脈ノ行路ニ從テ蔓

延シ微系血管ノ際限ニマテ及ホス而ノ是ヲ他

器ニ抵傳スルニハ微系血管ノ接續ヨリシテ多

ク及ホス者ナリ論ヘハ結膜ノ微系血管系統ハ

相連累スル_レ密ナル故ニ結膜ノ焮衝症ハ總テ

速ニ其全部ニ蔓延スルナリ而ノ他系ハ微系血

管ヲ具スルノ部綴ニ其結膜ニ接近スルト雖氏
容易ク焮衝ヲ傳ヘス是ヲ詢フルニ淚核淚囊等
ノ焮衝ハ結膜ニ傳ヘ難シ是レニ由テ之レヲ見
レハ眼中ノ諸器一系ノ微系血管相連累スル所
ハ則チ焮衝抵傳シ易キ者トス
神經脈管ニ富ム所ハ感傷ニ罹ルヲ尤甚シ
第一 眼病ノ經過際限
總テ眼疾ハ速ニ極度ニ昇リ是レニ治法ヲ加ヘ
サレハ立地ニ慢性ニ轉スル者ナリ體病○水晶及囊
曇暗等
多クハ慢性ノ者トス抑々急慢ノ性ハ年

齡ニ關係スル者少シ只損傷ノ劇易ト身體ノ性
質トニ關係スル者ナリ外傷打撲創深ク眼中ニ
入ル者多クハ慢性ナリ只其外表ノミヲ侵ス者
ハ速ニ經過ス惡液質ノ人焮衝ヲ患レハ多クハ
慢性ニ屬ス此症ハ殊ニ適當ノ治法ヲ要スル者
ナリ凡ソ體格既ニ惡液質ニ變スル者眼病ヲ患
ヒ易キハ世間頗ル多ク見ル所ノ一症トス

第二 眼疾識別

眼疾ヲ能ク鑒定スルニハ眼疾特異性ヲ知ルニ
アリ而シテ細慎シテ下ニ舉ル所ノ諸件ニ注意ス

ヘシ。

其一 際限ニアリ、殊ニ全身ノ感傷ノ度ニ關係シ、又眼中ノ疾病ノ劇易ト、疾病性トニ關係ス而メ疾病ノ特異性ハ是レニ關係スルヲ少レナリ。其二 發歇ノ時期一アリ、世人多クハ、眼疾發作ノ時期ヲ以テ、其特異性ヲ決斷セリ、然レモ實驗ニ由テ見ルニ然ラス、病順序ヲ發歇スル者ト雖モ、此ノ一事ヲ以テ、病ノ特異性ヲ決斷スルニ足ラス。

其三 分泌物ニアリ、分泌物ハ、淚涕、膿汁、粘液、及

ヒ、エビトリムセル、相合シテ出ル者ナリ、只

病ニ罹ル所ノ處ト、時期ニ從テ、其混合異ナルノ

ミ、蓋シ特異性ニ由テ異ル者ニ非ス、故ニ分泌物ヲ以テハ、燃衝ノ性ヲ決シ難シ。

其四 燃衝部ノ赤色ニアリ、凡ソ腺病、小腹患症、痛

風等ニ由テ發スル燃衝ハ、其患部ヲ診スルニ帶

青色ヲ顯ス始メ現サ、ルモ、ト雖モ遂ニ青色

ヲ帶フ、聖京僞、僂麻質外傷ニ由テ起ル燃衝ハ、赤

色中、黃色ノチ、ト酒名色ヲ帶フ、然レモ確實ナラ

ストス、實ニ諸ノ慢性眼燃衝ハ、多クハ青色ヲ顯

セハナリ。

其五 羞明ニアリ。羞明ハ、各種ノ劇甚眼焮衝ニ
發ス。殊ニ結膜、紅彩、網膜ノ焮衝ニ於テ甚タシ。其
原因ハ、蓋シ網膜ノ機能亢進スルニ由リ。其顯症
トナル者ナリ。而シテ多クハ眼瞼痙攣ヲ併發ス。凡
ク此ノ羞明ヲ以テ神經ノ病ヲ受ル。特異性ヲ決
斷スルヲ能フス。然レ氏リユステ、名ノ説ニ由レハ、
羞明ヲ以テ各異性ヲ辨別セリト云ヘリ。凡ク羞
明、現ル、眼疾ハ、癰癰性、痛風性、癩瘰質性ニ於
テ頗ル見ル所ナリ。殊ニ是等ノ諸性焮衝留連シ。

組織中既ニ滲出物ヲ致スニ於テハ、取モ見ル所
ノ者トス。

其六 病所及ヒ自覺症ノ性ヲ辨ス病者多ク自
覺症ノ適當ナルヲ他人ニ向テ訴ルヲ能ハズ。
小兒痴愚ノ人ハ殊ニ然リ。同病ヲ訴ルモ、人々其
訴ル所ノ形状ニ差アルノミナラス。尚且ツ同病、
其名目ヲ異ニスル所アリ。又或ハ眼病ノ疼痛アル
者、其疼痛ヲ訴ルニモ同シキヲ能ハス。是レヲ
以テ徵候ヲ確斷スルニ足ラストナス。然レ氏凡
ク疼痛ニ由テ病性ヲ決斷スルニ左ノ徵アリ云

ク、スコルビウセ眼焮衝ニハ、其疼ミ刺ス如キヲ
覺ヘ、痛風性眼焮衝ニハ、上眼窩上ニ、破裂スルカ
如キ疼ミヲ覺ヘ、癩麻質性眼焮衝ニハ、眼中破裂
スルカ如キ疼ミヲ覺ヘ、聖京屈性眼焮衝ニハ、眼
中灼熱ヲ覺フ、是レ之レヲ一般ノ軌則トス
其七、努張セル脉管ノ行路、ト分岐トヲ以テ其
特異性ヲ確斷スルト云說アリ、然レモ皆當中ノ
說ヲ得ス、殊ニ年齢ニ由テ各異ルヲアレハナリ、
多クハ億斷ニ出ツ、リエツテ、人ノ試驗ニ依レハ、眼
焮衝、血脈ノ蔓延スルハ、殊ニ其焮衝ノ舊新ニ關

係シ、病原ノ劇易ニ關係シ、又々眼中病原ノ、舍宿
スル部ノ貴易ニ關係シテ、異ル者ナリト云フ、此
編ニ於テ、特ニ論スヘキ者ハ、所謂、アプトミナ
ル脉管ナリ、此脉ハ、微系血管努張シテ、或ハ細ク、
或ハ太ク、靜脈状ニ屈曲シテ、其中黯黑色ノ血ヲ
充填ス、則チ靜脈正徵ニシテ、結膜ノ諸所ニ現レ、
無數ノ小屈曲ヲ致シ、遂ニ角膜ニ近接ス、而モ角
膜ノ周縁ニ於テ、數枝ニ岐レ、其末端、他脉ト交ル
者アリ、或ハ其末端、消散シテ痕跡ヲ見サル者ア
リ、或ハ短太ノ末ニ了ル者アリ、如此靜脈努張ヲ

以テ、角膜ヲ圍繞セラル、凡ソ此ノ如キ靜脈努張
ヲ顯シテ、而メ、焮衝ヲ生セサル者ハ、動モスレハ
焮衝ヲ誘發シ易ク、輕微ノ外因アレハ、忽チ結膜
焮衝ヲ生出ス、而シテ此ノアブドミナール脈ノ外、
更ニ微系血管ヨ見ルヲアリ、然レモアブドミナ
ール脈ハ、努張甚シク、其色黯黒ナルヲ以テ、是レ
ヲ辨別スヘシ、眼ノ此脈ヲ現ス者ハ、靜脈性トナ
スヘシ、焮衝止ムノ後モ、此脈尚ヲ治セスシテ留
連シ、収斂藥ヲ用ヒテ始メテ治スル者アリ、或ハ
再新ノ急性焮衝ヲ待テ治スル者アリ、此脈ノ現

ル、原因ヲ索ルニ、小腹靜脈多血ヲ病ム、體格ニ
基ツクヲアリ、又タ靜脈系統ノ一般弛緩スルニ
由テ、繼發スル者アリ、而メ其脈新生ノ者ニ非ス、
嘗テ有ル所ノ脈管、非常ニ膨大シ、其内ニ靜脈血
ヲ逼迫スルニ由テ顯ル、モノナリ、而メ其逼迫
ハ頭蓋中、血積ニ由テ起ル者トス、
結膜中、焮衝ヲ生スル脈管、終ル所ノ處ニ於テ泡
疹ヲ生ス、是レ蓋シ微系管、互ニ銳角ヲナシテ、合
接スル所ナレハナリ、然レモ此ノ泡疹ヲ以テ、眼
焮衝ノ、持異性ヲ確斷スルニ足ラス、

其ハ潰瘍ヲ生スルモ亦タ然リ。微血管相連合
スル所ニ於テ生ス。凡ソ潰瘍ハ、泡疹ヨリ生シ、或
ハ自菌特發潰瘍產物ヨリ生シ、或ハ腐蝕劑ノ誤
用ニ由テ生シ、或ハ酷厲物ノ浸出ニ由テ生ス。而
シテ其潰瘍ノ形狀、經過、病性、一様ナラス。且ツ持異
性ヲ確斷スルニ足ラス。

其九 身體ト、同質ノ組織ハ、身體ノ其實ニ疾病
ヲ受レハ、則チ眼中ノ同質モ、亦同病ニ罹リ易シ。
然レモ身體ニ感スル所ノ病因、是レヲ眼中ニ及
ホスニハ、殊ニ結膜ニ顯ル者トス。凡ソ結膜ハ、

頗ル諸性ノ感傷ヲ受ケ易ク、睫毛根、メーボーム
腺、是レニ次ク、此二器ハ、痛風聖京、偏性ニ頗ル感
ス。紅彩ハ、痛風ト、癩麻質ニ感ス。而シテ紅彩ノ形狀
色澤ヲ以テ、病性ヲ確斷スルヲ能ハス。其次ニ患
ル者ハ、強膜ト、水樣液囊トナリ。此二器モ亦タ諸
病因ニ由テ感傷セララル、ト雖モ、多クハ癩麻質
スコルヒロシス、ト痛風トナリ。
病者ノ年齡ヲ以テハ、特異病性ト、新生ノ原因ト
ヲ決斷シ難シ。若シ夫レ特異性ヲ、年齡ニ由テ定
メント欲スレハ、其病者ノ體格ヲ、詳明ニ審斷ス

ルニ如カス、體格ハ年齡ニ由テ、或ハ旺盛シ、或ハ
萎衰スルヲアレハナリ、

轉歸、豫後、

轉歸、豫後ヲ論スルニハ、組織變常ニ關係スル、眼
病轉歸ノ近因、如何ノ理ニ由テ同シカラサルヤ
ヲ知ルニアリ、

眼疾、如何ノ組織ヲ感傷スルヲ多キヤヲ比較シ、
且ツ其轉歸ヲ定ムルニハ、組織ノ病ニ係ルノ多
少ニ注意シ、病ム所多ケレハ、則チ轉歸モ亦々從
テ多クシテ遺病トナリ、遂ニ組織上ニ變態ヲ顯

ス尚更ニ組織性ノ外ニ病原ノ特異性アリテ以
テ不慮ノ轉歸ヲ生出スルヲアリ又々注意セス
ハ非ス「リエツテ」名ノ試驗ニ由テ遺病ノ多少ヲ左

ニ次第ス

其一 粘液漏出眼焮衝頗ナル大

其二 痛風性眼焮衝

其三 腺病眼焮衝

其四 腺病兼聖京屈眼焮衝

其五 癩麻質性眼焮衝

其六 外傷眼焮衝

蓋シ此比例ハ、險惡症ヲ生スルノ、次第ヲ以テ比
例スルナリ、而メ其實ハ、皆ナ特異病原ヨリ来ル、
尚且ツ眼疾ノ經過或ハ急、或ハ慢ナル者ト、年齢
トニ應シテ、轉歸豫後ヲ定メスハ非ス、凡ソ急性
眼炊衝ハ水液或ハ膿汁ヲ浸出シ、又々多脉ノ潰
瘍ニ轉歸ヲ取ルコト多ク、慢性眼炊衝ハ、虚弱潰瘍
肥大及ヒ硬結ニ轉歸ヲ取ルコト多シ、此ヲ以テ是
ヲ見レハ、遺病ヲ致ス所以ハ、此ノ諸件ニ關係ス
ル也、總テ年齢ニ由テ、轉歸ヲ論スルニハ、其年期、
素質ノ機能クノ機、微小ナルキニ當テ、其素質ニ

應スル所ノ疾病ハ、極メテ危險トスヘシ、故ニ遺
病ヲ論スルヲ待タス、
眼疾ノ原因ヲ論スルハ、前章已ニ眼病ノ素質ヲ論セリ、則チ採テ以テ此
ニ參考スヘシ、
凡ソ眼科ニアリテハ、眼疾ヲ診スルニ當テ、最モ
注意スヘキノ一事アリ、則チ眼疾中、此ノ如キ顯
症ハ、全身ノ感傷ニ關係シ、此ノ如キ現症ハ、全身
ノ體格ニ關係シテ、以テ生出シ来ルト云フコトヲ
辨別スルニアリ、此ノ診察ヲ明辨セサレハ、即チ

適當ノ治法ヲ施シ難ク且ツ緊要ノ事ニ係レハ
ナリ。
又々眼科醫士ハ、只眼目ニノ意ヲ注メテ可ナ
ランヤ、宜ク同時ニ發スル他患ト、既往ノ疾病ト
ニ至ルマテ、悉ク審察セズンハ非ス、凡ソ諸眼疾
ハ、外傷ヨリ起ルヲ除ク外ハ、四分シテ、其三ハ殆
ト他器他系ノ疾ヲ發動シテ、是レト關係スレハ
ナリ、其内腺病ヲ合併スル者頗ル多ク、小腹多血
ヲ合併スル者は、是レニ次キ、常習出血ノ沮塞痛風、
痿麻質、又々是ニ次キ、聖京屈、血液偏迫スル等ノ

症ヲ合併スル者ハ、最モ少シトス、
又々既往ノ體質ニ應スル疾病ヨリシテ、眼疾ノ
病原ヲ致ス者アリ、則チ腺病尤モ多ク、小腹多血
是レニ次キ、痿麻質、聖京屈性、眼疾等ハ皆是レナ
リ、

眼ノ結膜ハ、殊ニ腺病ニ罹リ易キ素質ヲ具フ、故
ニ腺病家ハ、動モスレハ結膜ニ病ヲ傳フ、而シテ小
腹多血ハ、屢々腺病ニ合併シ、終ニハ此兩症合併
シテ、更ニ他病ヲ生出スルモノニシテ、殊ニ痛風
ヲ生出ス、慢性皮病、屢々眼疾ノ原因トナル、然レ

凡皮膚ト、眼器トノ感應ハ、太々微ナル者ニシテ、
相關セサルカ如ク然リ。

急慢兩性ノ皮疹、腺病性ヲ具フル者ハ、又々太々
眼疾ヲ生出シ易シ。譬ヘハ痘瘡、麻疹、羅斯等ノ如
シ。凡ソ是等ノ皮疹ノ發生ハ、眼疾ヲ誘出シ易ク、
其腺病ヨリシテ眼疾ヲ萌生ス。夫レ小腹多血、及
ヒ其繼發病ハ、如何ノ理ニ由テ、眼疾ノ原因トナ
リテ來ルヤ未タ究明スル能ハス。是レ蓋シ小腹
多血ノ性ヲ、今ニ至ルマテ知ルヲ能ハサレハナ
リ。驚風ハ頭中ニ多血灌漑ヲ生出シ、是レニ由テ

眼病ノ原因トナルヲアリ。

遺傳素質

父母ノ遺傳、モ亦々眼疾ノ原因トナル。故ニ其素
質ト病症、父母ニ類似スル者殊ニ多シ。總テ同姓
相嫁リ、情慾盛ナル時ニ於テ、其素質最モ太々シ
トス。

不虞ノ原因モ、亦々多シト雖、多クハ是レヲ看
過シ、或ハ之レヲ意トセサル者アリ、其是レニ属
スル始原ハ、冒寒、器械様ノ損傷、傳染毒、光輝ノ變
態、空氣ノ壓力不平等ナリ。

職業ニ由ル原因、

學者ハ固ヨリ論ナシ、其外、國民眼病ニ罹リ易キハ、殊ニ聖業ニシテ眼力ヲ使役スル者、及ヒ日光ヲ以テ業ヲ主トルモ、其他放逸ノ遊民、飲食缺乏ノ小民、又々眼疾ヲ誘出ス、

眼疾診察法

診察ハ勉メテ眼中ヲ鑒定スルニアリ、則チ病眼ヲ光輝ニ對セシムヘシ、若シ羞明アル者ハ、日光ノ英烈ヲ避ケ、是レヲ適宜ニ眼中ニ入レテ、以テ診察スヘシ、近今ニ至テハ眼ノ内部ヲ洞見スル

為ニ諸様ノ眼鏡ヲ具ヘリ宜ク選用スヘシ、

若シ内部ヲ審視セント欲セハ、豫メ莖若ヲ滴シ

テ、瞳孔ヲ擴大セシメ、而メ肉眼、或ハ眼鏡ヲ用テ、

諸部ヲ精細ニ鑒定スヘシ、水晶體系統ノ病ニハ、

サンソ^ン、名ノ光輝試驗ヲ必用トス、殊ニ眼鏡ヲ

用ルヲ良トス、凡ソ醫士、光輝ニ背テ立テ、病者ヲ

光輝ニ對シテ坐セシメ、以テ光輝ヲ眼中ニ入レ、

病者自ラ眼ヲ開テ、醫士ヲ目撃セシメ、爾後更ニ

眼球ヲ運轉セシメ、遂ニハ醫士自ラ眼瞼ヲ開テ、

以テ仔細ニ診察スルナリ、蓋シ診察ノ際ハ、緩軟

ヲ貴フ、疎妄ヲ施スヲ禁ス、疎妄ナレハ、炊衝アル眼中、更ニ刺衝セラルレハナリ、

診察時ニ當テ、特ニ注意スヘキハ、紅彩ナリ、其眼瞼ヲ相開合交互シテ、以テ光線ノ紅彩ヲ刺衝スル、感動ノ輕重如何ヲ定ムヘシ、醫士總テ一切ノ諸件ヲ詳明ニ探索シテ、病者ヲ屢々診察スヘカラス、但シ試験ヲ以テ其審症ヲ確斷スヘシ、尚ヲ診察時ニ當テ、遺妄スヘカラサルノ一事ハ、按察スルノ時、壓迫ノタメニ眼中ヲ緊強セサラシム、此診察法終リテ、後チ病者ニ對シ、自覺症ヲ問ヒ、

以テ審斷ヲ助クヘシ、則チ診察法ト、自覺症ト相應シテ、後チ治法ヲ立ルヲ宜シトス、

眼疾治法ノ總範

眼疾一般ノ主治トナスヘキ者ハ、眼中諸所ニ顯ル、所ノ、障礙物ヲ治平スルニアリ、即チ左ノ規範ヲ以テスヘシ、

其一 障礙ヲナス事件ト、病因ヲ勉メテ避ルニアリ、

其二 既ニ一旦障礙ヲ致ス者ハ、其病症ヲ勉メテ抑制スルニアリ、

其三 眼疾ノ愈力ハ、極メテ微ナルヲ以テ、其力ヲ補助スルニアリ、

其四 眼疾諸症、極メテ患害ヲ遺シ、以テ根治ヲ碍ル者ハ、是レヲ攻撃スルニアリ、

其五 或ハ一旦生スル所ノ病症ニ乗シ、根治法ヲ施サレカタメニ、其勢ヲ増加セシムルヲアリ、或ハ増加スレハ、他部ヲ荒蕪スルノ恐レアルヲ以テ、其勢ヲ増加セシメスシテ、根治法ヲ施スアリ、

其六 根治法ヲ行フヲ能ハサル症ニハ、姑息法

ヲ要スルヲアリ、姑息法トハ何ヲ、曰ク外感ヲ防禦スルニアリ、

其七 兩眼、知覺敏ニシテ衰弱スル質、若クハ惡液質ノ人ニ在テ、眼病ヲ患レハ、再發ノ恐屢ヤ是レアリ、保護術ヲ以テ之レヲ防クヘシ、又々體格、惡液家ハ、日々ノ攝生ヲ慎ミ、其再發ヲ防クヘシ、然レモ其法至テ多シ、醫士何ノ法ヲ採テ、是レニ應用シテ可ナルヤハ、此小冊中、略論スルヲ能ハス、只根治法ヲ區別シテ、直達、間達ノ二法ニ分ツ、其直達法ハ、直ニ眼中ニ觸レテ、

其効ヲ達スル者ナリ。眼疾ノ劇度ニハ、常ニ是
レヲ用ルヲ要ス。効力頗ル猛烈ナルヲ以テ、謹
慎ニテ用ユヘシ。其間達法ハ、直チニ眼中ニ觸
レスニテ、眼ノ達隔ノ所ニ用ヒテ、眼中ニ變ヲ
起サシメテ、以テ治効ヲ全フスル者ナリ。諭ヘ
ハ、改質劑ヲ、惡液質ニ用ルカ如ク、更ニ全身ニ
轉覆ヲ至シ、以テ眼疾ヲ治スルノ効アル者モ、
亦間達法ニ屬ス。

藥劑總範

第一 不可量物

甲 乾温

其効興奮シテ、血行ヲ進メ、且ツ分泌ト、組織ノ
刺衝機ト、縮力トヲ増加ス。故ニ眼ノ生氣減衰
スル者、麻痺、癱瘓、質虛弱ノ潰瘍、慢性炊衝、及ヒ
壞疽等ニ効アリ。是ヲ用ル法ハ、布巾ヲ煖メ、或
ハ藥囊ヲ煖メ、眼上ニ貼スヘシ。又火熱、日熱共
ニ用テ可ナリ。

乙 光輝

眼中ニハ、一種特異ノ刺戟アリテ、殊ニ網膜ニ
達ス。故ニ眼中ノ機能減少スル所ノ者ハ、光輝

奇驗ヲ奏ス。但シ之レヲ用ルニハ、刺衝機増減ノ状態一應シテ、進退セスハ非ス。凡ク刺衝機亢進スル者ニハ、日光ノ苛烈ヲ避ケ、青色或ハ綠色ノ眼鏡ヲ用ルヲ良トス。若シ刺衝機減スル者ニハ、日光ヲ直チニ用ユヘシ。其減スルヲ稍劇キ者ハ、晴天白日ノ日光ヲ用ヒ、其尤劇キ者ニハ、燭火ヲ用ヒ、黑障眼ニ在テハ、日光ヲ見セシメ、其全治ヲ得ヘカヲサル症ニハ、眼鏡ニテ日光ヲ聚メ、以テ是レヲ眼中ニ射入セシムヘシ。

丙 越列幾爺兒

眼科ニ在テハ、至要ノ者トス。其効刺衝シテ、轉覆ノ効アリ。是レヲ用ルノ式ハ、消極出亞鉛ヨリヲ、病所ニ接シ、以テ其機ヲ通スルナリ。凡ソ知覺鈍麻、刺衝鈍麻、網膜麻痺、又々組織弛緩、脉管膨脹等ニ効アリ。消極ヲ直チニ病所ニ用ルレハ、神經痛ニ効アリ。則チ倭麻質痛ノ如シ。又々痙攣、角膜翳疼痛部、滲出物、及ヒ硬結等ヲ治ス。越氣即チ越列幾的見後皆之ニ倣ヘヲ用ユ可ヲサル症ハ、腦髓損、急性血積ヲ兼ル者、腦焮衝刺衝増加、骨

瘤、神經ヲ壓迫スル者、並ニ諸瘤等ナリ、又々
麻痺、一部猶知覺機尤進スル者ニ在テハ、特
ニ是レヲ用ルニ當テ注意スヘシ。
越氣施行ノ療法ハ、ロキチカ、人發明スル所ハ、
エレキチスマグ子トナリ、則チ其導子ヲ病
所ニ接シテ、強弱ヲ適セシム、凡ソ初メ其力微
弱ナラシメテ、漸々増加スルヲ要ス。
越氣ハ、角膜曇暗ニ効アル所以ハ、其機能ヲ興
奮セシメテ、以テ新陳代謝ヲ進ルニアルヘシ。
灰白内障眼ニハ、越氣ヲ用ユ可ラス、若シ是レ

ヲ用レハ、患者ヲシテ益々險惡ニ陷ラシメ、或
ハ水晶體、全ク損敗セララル、ニ至ル者アリ。

第二 氣類

眼疾ニハ、炭酸瓦斯諸母尼亞瓦斯ヲ用ユ、炭酸
ヲ含ム鑛泉ハ、通例多ク炭酸ヲ發スルヲ以テ
効アリ、若シ此ノ鑛泉ナケレハ、舍密法ニ從テ、
炭酸瓦斯ヲ開發セシムヘシ、夫レ結膜ノ疾病
ハ、或ハ炭酸ヲ直チニ眼中ニ觸レシムルト、小
半時ニシテ、一日ニ三回ヨリ、六回ナルヘシ、其
他ノ眼疾ニモ、亦々此法ヲ用ヒテ、甚々奇効ア

ルヲアリ。

諸母尼亞ヲ行フニハ、疾眼ヲシテ諸母尼亞氷ヲ貯ル、硝子瓶ノ口ニ接シテ、以テ其氣ニ觸レシムルナリ、或ハ生石灰、一分、礪砂末、二分、ノ調劑ヲ貼スルモ可ナリ、殊ニ麻痺症ニ効アリ、此劑刺戟ノ力猛ナルヲ以テ、施間永カルヘカラス。

第三 蒸氣

〔以〕 香竈蒸氣

香竈蒸氣ハ、手ヲ以テ患眼ヲ遮弊シ、指間ヨリ

其蒸氣ヲ眼中ニ受ケシムルナリ、若シ是レヲ越氣ト共ニ用ルレハ、其効頗ル偉ヒナリ、龍腦ヲ以テ行フニハ、布片ヲ煖メ、是レニ龍腦ヲ塗抹シ、以テ眼上ニ懸ルナリ、其効ハ、刺戟興奮シテ、眼中ノ血行ヲ催進セシム、此ヲ以テ給養機能ノ、麻痺スル者ト沈衰スル者トニ用テ可ナリ、藥囊ハ害アリ、其故ハ藥料眼球ヲ壓迫スルヲ、不平ニシテ且ツ眼中ヲ熱セシムルコト多ケレハナリ

〔呂〕 濕香竈蒸氣

粗末ノ香竈藥ナリ。是レヲ皿中ニ盛リ、熱湯ヲ
溉キ、微火ニ煖メ、以テ其氣ヲ眼中ニ受ケシム
ルナリ。是ヲ用ルニハ、漏斗ヲ蓋ヒ、其漏口ヨリ
眼中ニ觸レシムルヲ良トス。若シ刺戟ノ効ヲ
増加セシメント欲スルニハ、水ニ替ルニ酒ヲ
以テスヘシ、神經麻痺ヲ兼ヌル、稠厚硬結ニ効
アリ。
〔波〕 温水蒸氣ハ、中ニハ、其効ハ、
其効、濕香竈蒸氣ニ同シ、只其異ル所ハ、弛緩軟
化、分解、鎮靜ノ効ヲ兼ヌルナリ。此以テ經久稠

厚、硬結、及ヒ化膿ノ知覺機尤進ト、疼痛ヲ兼ス
ル者ニ効アリ。

第四 滴流物

〔甲〕 揮發眼水

眼瞼及ヒ眼圍ヲ洗濯シテ、刺戟興奮ノ効アル
者ナリ、麻痺、及ヒ組織弛緩、殊ニ其症、老人ニ於
ケル者ニハ〔ゲ〕符〔ム〕符殊ニ効アリ、揮發眼藥ニ、
用ルモノ最モ多シト雖モ、其一ニヲ舉クレハ
的列普油、硃砂揮發精、龍腦酒、硫酸亞的兒等ノ
如シ。

乙 溫水

其部ヲ清淨ニシ、且ツ弛緩、鎮靜、鎮痛、ノ効アリ、故ニ眼筋疼痛ノタメニ、緊張シテ硬結シ、及ヒ膿汁ヲ分泌シテ眼瞼粘連スルモノニ効アリ、又タ蒸劑トナシテ用ユルモ可ナリ、

丙 冷水

施用ニ應ジテ、其効差等アリ、寒水蒸漏法ハ、溫熱ヲ減シ、組織ノ縮力ヲ増シ、泌別ヲ制シ、知覺機ヲ抑制ス故ニ諸ノ焮衝、組織衰弱、弛緩、損傷、血積、出血、血液溢、出、神經知覺

機尤進、神經痛、及ヒ羞明等ヲ治ス、

寒水 氷 雪

其効始メハ蒸漏ニ異ルヲナシト雖、反應ノ機ニ由テ、速ニ左ノ症ヲ繼發ス、即チ赤色、灼熱、分泌增加、生氣増進等是ナリ、故ニ生氣ト分泌機ヲ増進セシメ、病ヲ為メニ尤進スル、刺衝機ヲ制伏シ、且ツ刺戟ヲ習慣セシムルニハ、此法ヲ用ユ、即チ點、其力頗ル強ク、刺戟ノ効ハ、灌流ノ高抵ニ應シテ差等アリ、此頗ル効アル者ハ、興奮強壯ノ力ニアリ、此以テ

麻痺黑障眼、組織弛緩、反復掀衝等ヲ治ス。知覺
尤進スル眼ニハ、微温湯ヲ以テ始メ、終リニ寒
冷ニ移ルヲ良トス。

丁 眼水

罨貼法、射注、點滴トナシ是レヲ用フ。或ハ毛筆
ヲ以テ塗抹スルモ可ナリ。凡ソ是レニ用ル者
ハ、溶解水、浸汁、煎汁等ヲ寒温其度ニ適シテ、聽
用ス。眼中ニ點滴スル後ハ、其部ヲ拭フテ清乾
シ、烈風、光輝ヲ避クヘシ。凡ソ眼水ハ、其用ルニ
當テ、是ヲ濾過スルヲ要ス。然ラサレハ藥石ノ

分子、眼中ニ入リテ刺戟スレハナリ。

一 點眼水

刺戟スルヲ以テ新製ヲ用ユヘシ。用後五ニ
ウト間刺戟ノ留連スルヲ常トス。其餘時ニ至
テ、尚ヲ止マサル者ハ、刺戟過ルノ候トナス。滴
入後ハ、眼ヲ閉合セシム。滴入ハ、謹慎シテ行フ
ヘシ。一日三四ヨリ、四回ヲ度トナス。必ス一頓
ニ多量ヲ製スヘカラス。若シ點眼水ヲ射注法
ニナシ行フニハ、一ヨリ、三ヨリマテヲ製スヘ
シ。射注法ハ、刺戟甚シ。故ニ結膜腫脹著キ者ニ

應ス。又淚器ノ慢性病ニモ應ス。淚器病ニハ、
「^ル」名ノ射注器ヲ用ユ。然レモ今ヤ是レヲ用
ル者稀ナリ。

二 刷眼水

此法ハ、猛力ノ腐蝕劑ヲ以テ、眼中一所ニ限リ
テ行フ者ニ用ユ。故ニ小量ノ藥汁ヲ採リテ、一
部ニ限リテ行ヒ、而モ是レヲ行フノ後、直チニ
眼中ヲ洗フテ、其藥力ノ他部ヲ侵蝕スルヲ制
スヘシ。凡ソ此法ハ刺戟全ク止ムニ非サレハ、
反復シテ用ユルヲ許サス。故ニ數日ヲ經テ再

ヒ行フヲ要ス。

三 眼蒸法

殊ニ眼瞼眼縁ノ病、結膜病ニ於テ是レヲ用ユ。
又タ分泌ノ乾燥ヲ防クニモ用ユ。蒸濁法ニハ、
寒性アリ、熱性アリ、其ニ供用スヘシ。則チ布片
ヲ藥汁ニ蘸シ、以テ眼上ニ貼スルナリ。

四 眼浴法

硝子製ノ小盃小皿ヲ用ユ、皆眼形ニ適合スル
モノヲ撰用スヘシ。

第五 稠厚物

天 芭布

其製濕溫ナル者、軟和ナル者、軟和弛緩ノ効アリ、若シ是レニ他物ヲ配合スレハ、則チ各其効ヲ異ニス、通例化膿ヲ進メ、硬結ヲ軟化スルノ効ヲ專トス、故ニ人多クハ眼中ヲ弛緩セシムルト云フ恐レヲ以テ、芭布ノ神効ヲ知ル者ナシ、夫レ芭布ハ、溫熱ニ過クヘカラス、又タ大量ニ行フヘカラス、常ニ勉メテ同度ノ溫ヲ得セシメ、是レヲ去ルノ後、必ス眼上ヲ拭フヘシ、芭布ニ製スル藥劑ハ、亞麻仁、米、麥、菲、沃、私、葉、矢、鵲

荅、葉等ナリ、是レヲ水、或ハ乳汁ニ煮テ以テ芭布ノ稠トナス、蓋シ其煮ルキ、長カルヘカラス、而メ一日毎ニ其製ヲ改ムヘシ、

地 糊劑

眼瞼ノ貼劑トシテノミ用ユ、論ヘハ硫酸糊、砒石糊等ノ如シ、

等六 眼膏

諸眼藥中、眼膏ハ、最モ良善ニシテ、且ツ其用ニ適ス、而メ其効緩慢、持長シテ用ユレハ、遂ニ内裏ニ竄透ス、殊ニ刺戟ノ効ヲ以テ稱セラル、多

クハ眼瞼、眼圍ノ諸症ニ應ス。

眼膏ハ、新鮮ノ家猪脂ヲ良トス、即チ家猪脂中、
礦類末、鹽類、植物、或ハ亞的兒油類、ヲ調和シ、用
ル者ナリ、熱國ニ在テハ、家猪脂中、十分一ノ蠟
ヲ加フヘシ、蓋シ散末ハ、仔細ニ研和シテ、眼中
其粗糙ノタメニ刺戟ヲ起サ、ルヲ良トス、若
溶解スヘキ藥料ハ、豫メ是レヲ溶解シテ、而メ
後ニ稠和スヘシ、多ク是レヲ製スルモ、一頓ニ
一錢以上ニ過クヘカラス、然ラサレハ腐敗ヲ
致スノ患アリ、用法ハ、毎日二回ヲ以テ足レリ

トス、其他規則トナルヘキ者ナシ、蓋シ是レヲ
行ントスル前ニハ、温水ヲ以テ眼上ヲ洗フヘ
シ、

第七 眼散

眼散ノ機能ハ、一ハ舍密樣、一ハ器械樣ナリ、而
メ吸収ヲ促ス、故ニ吸収機ヲ奮發セシメシト
欲スル片ニハ、是レヲ用ヒテ奇効アリ、此ニ用
フル散末ハ、極末ヲ要ス、而メ眼中ニ吹込ミ、或
ハ毛筆ヲ以テ塗抹スルナリ、

第八 眼硬膏

眼瞼或ハ眼圍ニ貼シテ、眼上ヲ被覆シ、或ハ合接シ、或ハ是レヲ刺戟スルニ用フ、若シ刺戟ヲ要セサル者ハ「ハルスナキ硬膏ヲ用フヘシ、單一ノ白蠟膏多ク適用ス、

第九 乾腐蝕藥

此劑ハ觸ルゝ所皆其組織ヲ損敗ス、或ハ其近傍ニ及ホス者アリ、此以テ息肉、胬肉、ヲ潰爛スルニ用フ、即チ硝酸銀ヲ適用ス、是レヲ用ルノ式ハ、眼瞼ヲ腐蝕セシメント欲スレハ、其眼瞼ヲ翻轉シ、藥料ヲ採テ病所ニ塗抹シ、其所白膜

ヲ生スルヲ見テ、則チ眼瞼ヲ洗濯ス、是レヲ洗濯スルニハ、水或ハ乳汁ヲ良トス、而更ニ扁桃油ヲ塗貼シ、以テ眼瞼ヲ本位ニ復セシム、若シ是レヲ眼ノ結膜上ニ行ハントスルモ、其式即チ同シ、爾後、眼瞼ヲ閉合セシメ、布片ニテ被覆ス、腐蝕ヲ反復シ用ルハ、其刺戟止ムノ後ニ非サレハ行フヘカラス、

眼科摘要卷之一

了

